

1. 調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査対象学年

小学校：第6学年児童 中学校：第3学年生徒

3. 調査内容

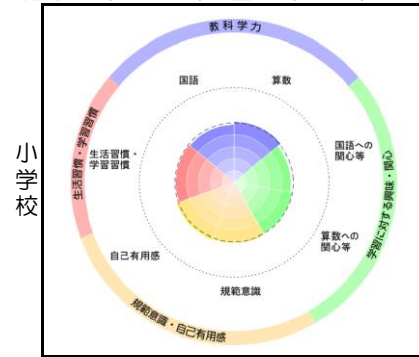
- (1) 教科に関する調査 小学校：国語・算数 中学校：国語・数学
- (2) 質問調査

調査問題： <https://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm>

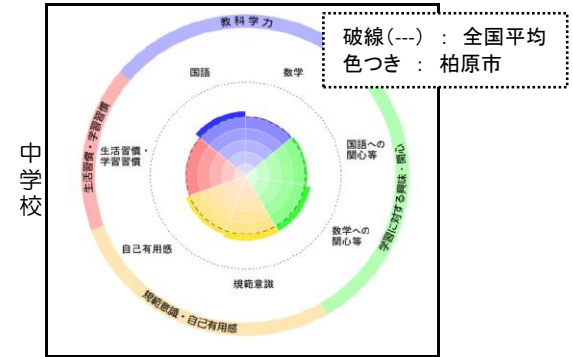
結果資料： <https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/>

●児童・生徒質問調査

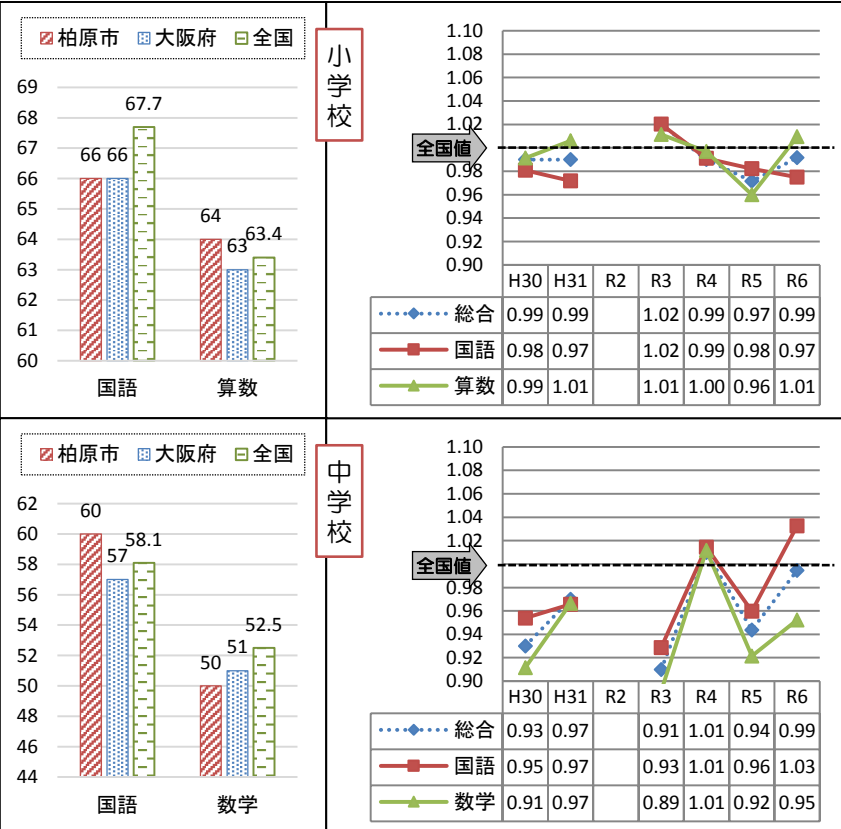
■結果チャート(全国チャート)



※教科調査・質問調査の結果を全国値を基準に図示したもの



●各教科の平均正答率(%)・経年推移(対全国比)



■質問項目よりわかること

- ①基本的な生活習慣等について
  - 朝食、就寝や起床時間等、規則正しい生活習慣が概ね身についている。
  - 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等について概ね肯定的である。
  - ▼ 学校外でICT機器を使って学習することが少ない。
  - ▼ ゲーム、SNSや動画視聴をする時間が長い(特に中学生)。
- ②学習習慣・学習環境等について
  - 学習でのICT機器の活用に効力感を感じている。
  - ▼ 授業でICT機器を活用する機会が少ない。
  - ▼ 平日・休日ともに、授業外で勉強をしている時間が短い。
  - ▼ 新聞をほとんど読まない。
- ③授業改善等について
  - 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が進んでいる。(課題解決、発表、考えを深める、次の学習につなげる、探究的に学ぶ等)
  - 学級で互いを認め合い、協働的に活動できている。

《結果概要》  
 小学校6年生 算数と中学校3年生 国語で全国の平均正答率を上回っています。基本的な生活習慣は概ね身につけており、規範意識や自己有用感等についても強みが見られますが、ゲームやSNS・動画視聴をする時間が長いことが課題です。学校では、順調に授業改善が進んでいますが、ICT機器を学習ツールとして使う機会が少なく、家庭等で勉強する時間が短いことも課題です。

《引き続きご家庭にお願いすること》

- ①基本的な生活習慣の定着
- ②家庭学習・主体的な学びへの支援
- ③スマートフォン等の端末の適切な利用



詳細な結果を記載した参考資料は市HPに掲載しています。  
[http://www.city.kashiwara.osaka.jp/files/00353526/R6zenkougakuchou\\_sankou.pdf](http://www.city.kashiwara.osaka.jp/files/00353526/R6zenkougakuchou_sankou.pdf)